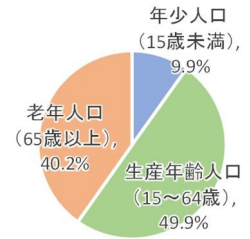


	世帯数	人 口	年 齢 別 人 口
現 在	421 世帯	998 人	15 歳未満 (年少人口) 99 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 500 人
			65 歳以上 (老年人口) 403 人
約 50 年前	320 世帯	1,359 人	



歴史等

地名の由来は、山端の突き出た地形によるとされます。集落の起源は明らかではありませんが、『播磨国風土記』の神前郡条の冒頭には、伊和大神の子建石敷命が、山使村の神前山に鎮座したことから、神前郡という名づけたことが記されており、山崎はこの「山使村」にあたると考えられています。また、二之宮神社の裏山(神前山)には大きな岩「磐座」があり、建石敷命がここに降り立ち、鎮座したと考えられています。

古代律令制では播磨国神前郡高岡里、中世は高岡荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組では、はじめは山崎組、寛延2年(1749)の一揆後の寛延3年(1750)からは辻川組に属しました。『兵庫県播磨国地種便覧』によると、明治14年(1881)の戸数は137戸・人口は583人でした。明治22年(1889)に福崎村の大字となりました。



二之宮神社



秋祭り・屋台



虫送り



小国家住宅



水路改修記念碑



法界萬霊塔

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 建築物	1 旧小國家住宅診療所	—	旧小國家は、江戸時代に庄屋を務め、幕末から明治にかけて活躍した小國鉄十郎生家としても知られる。明治から昭和にかけて地域医療に貢献した鉄十郎の孫である小國積治生家でもある。診療所は主屋の東側に隣接し、切妻造棧瓦葺の木造平屋建て、西方を待合室とし、東北には手術室を張り出す。 【国登録有形文化財】		●				
	2 旧小國家住宅長屋門	—	旧小國家は、江戸時代に庄屋を務め、幕末から明治にかけて活躍した小國鉄十郎生家としても知られる。明治から昭和にかけて地域医療に貢献した鉄十郎の孫である小國積治生家でもある。長屋門は主屋の東南方に建ち、切妻造棧瓦葺で、中央南寄りに門口を設ける。診療所開設に伴い部屋は病室に改造された。 【国登録有形文化財】		●				
	3 旧小國家住宅主屋	—	旧小國家は、江戸時代に庄屋を務め、幕末から明治にかけて活躍した小國鉄十郎生家としても知られる。明治から昭和にかけて地域医療に貢献した鉄十郎の孫である小國積治生家でもある。主屋は切妻造棧瓦葺の平屋建て、東方を土間、西方床上部を四間取とし、西南に表座敷を配し、南面中央西寄りに小振りな玄関を突出させる。西側2間分は増築された奥座敷で、表座敷などは診療に使われた。 【国登録有形文化財】		●				
	4 旧小國家住宅塀	—	旧小國家は、江戸時代に庄屋を務め、幕末から明治にかけて活躍した小國鉄十郎生家としても知られる。明治から昭和にかけて地域医療に貢献した鉄十郎の孫である小國積治生家でもある。塀は長屋門の東北端から西南端までを断続的に囲う。総延長 99mの土塀で、高さ 1.8mから 2.1m、厚さ約 40 cm、玉石積基礎の上に築かれ、もと白漆喰塗仕上げとし、頂部に棧瓦を葺く。 【国登録有形文化財】		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	5	法界万霊塔	明暦3年 (1657)	高さ2m15cm、幅72.5cm、厚さ25cm。上部は山形、下部に蓮華座、左右に帯状の縁を残し彫り下げている。正面中央には「南無妙法蓮華経 為法界萬霊」と銘文が刻まれ、その左に明暦3年(1657)の紀年銘がみられる。 【町指定有形文化財】				●		
	6	釈迦如来坐像(山崎南墓地)	不明	釈迦如来の石仏。				●		
	7	地藏菩薩坐像(地藏堂)	安永年間 (1772~1781)	地藏菩薩の石仏。台座正面には願主等、右に造立年月日が記されているが、いずれも下部は判読できない。				●		
	8	地藏菩薩立像(地藏堂)	明治37年 (1904)	地藏菩薩の石仏。正面に像容と造立年月日とともに「沖中地藏」と記されている。台座正面には発起人2名の名が記されている。				●		
	9	六地藏(山崎東墓地)	天保13年 (1842)	六地藏の石仏。うち1基の正面には像容と造立年とともに「念仏講中」と記されている。				●		
	10	六地藏(山崎北墓地)	明治44年 (1911)	六地藏の石仏。うち1基の正面には像容と造立年月日が記されている。昭和62年(1987)8月造立のものと併設。				●		
	11	題目塔(妙法寺)	文化4年 (1807)	題目塔。正面には「南無妙法蓮華経 日蓮大菩薩法界万霊」、右には造立年月日が記されている。				●		
	12	題目塔(七面山)	昭和9年 (1934)	正面には「南無妙法蓮華経 一天四海皆為妙法 未法万年令法久住」、右には造立年月日、左には施主等が記され、台座正面には「法界万霊」と記されている。				●		
	13	題目塔(七面山)	昭和11年 (1936)	正面には「南無妙法蓮華経」の文字とともに神名が記され、台座正面には「法界 奉建立 七宝塔」の文字と造立年月日等が記されている。				●		
	14	題目塔(七面山)	不明	正面には「南無妙法蓮華経最正位清明天王 一天四海 皆歸妙法」と記されている。				●		
	15	題目塔(七面山)	不明	正面には「南無妙法蓮華経荒玉天王 身出光明 □□自在」と記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 石造物	16	読誦塔（妙法寺墓地）	享保20年 (1735)	正面には「南無妙法蓮華経法界万霊」と記され、背面には造立年月日等が記されている。				●		
	17	読誦塔（妙法寺）	弘化5年 (1848)	正面には「奉漸読妙経五千部成就塔」と記され、背面に建立年月が記されている。				●		
	18	三界万霊塔（地藏堂）	不明	正面には「法界万霊」と記されている。				●		
	19	石鳥居（二之宮神社）	享保18年 (1733)	石鳥居。右柱正面には造立年月日、左柱正面には石匠が記されている。				●		
	20	石鳥居（二之宮神社）	昭和8年 (1933)	石鳥居。右柱正面には「氏子中」、左柱正面には造立年月が記されている。				●		
	21	石鳥居（七面山）	昭和11年 (1936)	石鳥居。右柱正面には施主、左柱正面には造立年月日が記されている。				●		
	22	石灯笼（七面山）	明和2年 (1765)	石灯笼。正面には「御神灯」、右に造立年月、左に願主が記されている。明和9年造立のものと対をなす。				●		
	23	石灯笼（七面山）	明和9年 (1772)	石灯笼。正面には「御神灯」、右に造立年月、左に願主が記されている。明和2年造立のものと対をなす。				●		
	24	石灯笼（二之宮神社）	寛政8年 (1796)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面には「御神灯」、右灯笼の左に「寛政八歳」、左灯笼の右に「丙辰九月 吉祥日」と記されており、左右ともに基壇には「氏子中」と記されている。				●		
	25	石灯笼（妙法寺）	文化3年 (1806)	石灯笼。基壇右に「文化三年丙寅九月日」と記されている。				●		
	26	石灯笼（二之宮神社）	文化12年 (1815)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面に「二宮大明神」、右灯笼の右に造立年、左灯笼の左に造立月日が記されている。				●		
	27	石灯笼（二之宮神社）	明治38年 (1905)	左右一対の石灯笼。右灯笼の正面に「献」、背面に造立年月、左灯笼の正面に「灯」、背面に願主が記されている。				●		
28	石灯笼（二之宮神社）	明治39年 (1906)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面に「日露戦役 記念灯」、側面に造立年月が記され、台石の正面に「氏子中」、側面に15名の人名が記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	29	石灯笼（七面山）	明治 39 年 (1906)	石灯笼。正面には「献灯」、右に「七面御宝前」、左に施主、背面に造立年月が記され、基礎の正面に「日露記念」と記されている。				●		
	30	石灯笼（二之宮神社）	明治期 (1868~1912)	左右一対の石灯笼。右灯笼の正面に「奉」、左に造立年等、左灯笼の正面に「納」、左に「同年同人」と記されている。				●		
	31	手水石（二之宮神社）	文化 6 年 (1809)	手水石。正面に「奉納 盥水」、背面に造立年月日が記されている。				●		
	32	手水石（妙法寺）	文政 11 年 (1828)	手水石。正面に「盥水」、背面に造立年月・願主が記されている。				●		
	33	狛犬（二之宮神社）	大正 8 年 (1919)	石造狛犬。				●		
	34	狛犬（七面山）	昭和 13 年 (1938)	石造狛犬。				●		
	35	香炉（七面山）	昭和 2 年 (1927)	香炉。正面に「七面大天女神」と記されている。				●		
	36	香炉（七面山）	昭和 16 年 (1941)	香炉。正面に「最上殿」と記されている。				●		
	37	井筒（二之宮神社）	明治 20 年代	井筒。正面に「征清記念」と記されている。				●		
	38	大杉兵太郎頌徳碑	大正 6 年 (1917)	大杉兵太郎の顕彰碑（頌徳碑）。正面には「惟器是適」の文字とともに頌徳碑文が記されている。				●		
	39	小国鉄十郎頌徳碑	大正 10 年 (1921)	小国鉄十郎の顕彰碑（頌徳碑）。正面には頌徳碑文が記されている。				●		
	40	黒田上人頌徳碑（七面山）	昭和 12 年 (1937)	黒田上人の顕彰碑（頌徳碑）。正面には「黒田上人頌徳碑」と記されている。七面山に位置する。				●		
	41	三好晶寿頌徳碑（七面山）	昭和 23 年 (1948)	三好晶寿の顕彰碑（頌徳碑）。正面には「三好晶寿先生頌徳碑 大井進謹書」と記されている。七面山に位置する。				●		
	42	戦歿者墓碑（山崎墓地）	昭和 28 年 (1953)	正面には「大東亜戦歿者之墓」と記されている。				●		
43	山崎水路改修記念碑	昭和 39 年 (1964)	水路改修を記念して建てられた石碑。正面には「水路改修記念碑」と記されている。			●				
44	玉垣建設記念碑（二之宮神社）	大正 7 年 (1918)	玉垣建設を記念して建てられた石碑。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
建造物	石造物	45	記念宝塔（妙法寺）	文化5年 (1808)	記念宝塔。				●		
		46	石造十三重塔（妙法寺）	不明	石造十三重塔。				●		
		47	一石五輪塔（妙法寺墓地）	不明	一石五輪塔。				●		
		48	石段標（二之宮神社）	延享3年 (1746)	左右一対の石段標。右柱正面に造立年、左柱正面に造立月日が記されている。				●		
		49	石棺蓋石（山崎立石）	不明	家形石棺の蓋石。					●	
		50	石棺底石残欠（大塚・五反田北畔）	不明	組合式石棺の底石の残欠。					●	
		51	百度石（二之宮神社）	不明	百度石。				●		
		52	墓碑（山崎西墓地）	天和2年 (1682)	墓碑。正面には「南無妙法蓮華經□□善院法宜□榮」などの文字が記されている。				●		
		53	墓碑（妙法寺墓地）	元禄元年 (1688)	墓碑。正面には造立年月日とともに「師範興生院日任大徳」の文字が記されている。				●		
		54	墓碑（山崎墓地）	元禄年間 (1688~1704)	墓碑。正面には造立年月日（年数が判読できない）とともに「南無妙法蓮華經雪信妙法禪尼」と記されている。				●		
		55	墓碑（山崎墓地）	元禄年間 (1688~1704)	墓碑。正面には造立年月日（判読できない）とともに「南無妙法蓮華經持法妙信禪尼」と記されている。				●		
	56	竹本□太夫墓	天保8年か (1837)	義太夫師匠墓碑。正面には「竹本□太夫墓」と記されている。	●			●			
	その他の構造物	57	月見橋	昭和39年 (1964)	市川に架かる町道井ノ口山崎線の鋼橋。橋長94.5m。		●		●		
美術工芸品	絵画	58	加藤清正虎退治図（二之宮神社）	安政3年 (1856)	奉納者は「当村子供中」とある。94.5×101cm。	●			●		
		59	歌舞伎題材図（二之宮神社）	明治元年 (1868)	奉納者は「橋本姓 儀兵衛未年女姓」とある。97×147cm。	●			●		
		60	日清戦争図（二之宮神社）	明治28年 (1895)	奉納者14名。世話（発起）人は坪田増太郎・大杉才次。118×172cm。	●			●		
		61	一の谷合戦図（二之宮神社）	明治28年 (1895)	奉納者20名。世話（発起）人は坪田増太郎・大杉才次。118×172cm。	●			●		
		62	楠公父子桜井訣別図（二之宮神社）	明治28年 (1895)	画家は「古田探溪」、奉納者は「大工当村安田常次郎」とある。174×200cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品 絵画	63	天の橋立図(二之宮神社)	大正5年(1916)	奉納者は「当村 楠田金次」とある。25×33 cm。	●			●		
	64	川中島合戦図(二之宮神社)	大正11年(1922)	奉納月は読み取れない。奉納者は「当村氏子・子年23才 橋本浜太郎」とある。87×120.5 cm。	●			●		
	65	相撲番付額(二之宮神社)	昭和3年(1928)	奉納者は不明。福崎駅前に於テ晴天一日興行仕候。138×102 cm。	●			●		
	66	古今三忠臣図(二之宮神社)	昭和3年(1928)	奉納者は「宍粟郡山崎町 竹内よし」とある。楠正成・大石良雄・乃木希典。83.5×96 cm。	●			●		
	67	加茂川合戦図(二之宮神社)	不明	画家は「古田探溪斎」、奉納者は「当邑 子若中」とある。152×191 cm。	●			●		
	68	中国武將図(二之宮神社)	不明	奉納者は不明。186×99 cm。	●			●		
	69	牛若丸図(二之宮神社)	不明	奉納者は不明。画家は「佐々木守雄」とある。113×182 cm。	●			●		
	70	俳諧額(二之宮神社)	不明	奉納者は不明。71×150 cm。	●			●		
	71	森蘭丸奮戦図(二之宮神社)	不明	奉納者は「当村橋本善次」とある。96×148 cm。	●			●		
	72	相撲番付額(二之宮神社)	不明	奉納者は不明。126×118.5 cm。	●			●		
	73	一字書額(二之宮神社)	明治44年(1911)	奉納者は「当村少年学生中」とある。発起人は坪田徳太郎・後藤勝次。99.5×118 cm。	●			●		
	74	一字書額(二之宮神社)	不明	奉納者は不明。114×161 cm。	●			●		
	75	義経八艘飛図(妙法寺)	文政4年(1821)	画家は「魯岳」、奉納者は「当村若中」とある。96×133 cm。	●			●		
	76	坂田金時図(妙法寺)	明治6年(1873)	奉納者は「願主当国神東辻川福渡金吉所願」とある。奉納妙見大菩薩宝前。54×37 cm。	●				●	
	77	武者絵図(妙法寺)	文久4年(1864)	奉納者は「村 長太郎 子年 男七歳」とある。	●				●	
	78	南無妙法蓮華経額(妙法寺)	明治37年(1904)	奉納者は「加西郡下里村出征軍人 佐伯徳治」とある。39.5×23 cm。	●				●	
	79	羽子板絵馬(妙法寺)	不明	奉納者は不明。貼絵・浦島太郎。70×36・11.5 cm。	●				●	
80	羽子板絵馬(妙法寺)	不明	奉納者は不明。3枚。	●				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり													
				①	②	③	④	⑤	⑥								
美術工芸品	工芸品	81	梵鐘（妙法寺）	—	妙法寺の梵鐘は、よく整った形と重厚な風格をそなえた鐘である。第2次大戦中に梵鐘の多くは金属回収のため供出されたが、この梵鐘は昭和17年（1942）に重要美術品認定の願書を提出して難をのがれた。信仰物というだけでなく、江戸時代における京風の典型的な和鐘の1つとして貴重である。 【町指定有形文化財】									●			
		82	隨身門狛犬（二之宮神社）	—	隨身門の右大臣・左大臣像脇に置かれている。木造彩色又は乾漆造りと思われる。									●			
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	83	妙法寺文書	—	1件、1点。							●					
有形の民俗文化財	祭具	84	屋台（山崎区）	—	布団屋根型屋台。									●		●	
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	85	秋祭り（福崎）	—	福崎地区・高岡地区の屋台13台（布団屋根型6台、神輿屋根型7台）が二之宮神社に集まる。本宮では、宮元である山崎屋台が12台の屋台をJR福崎駅前へ迎えに行き、福崎駅前で屋台が練り上げられた後、二之宮神社に宮入りする。拝殿で神事が行われ、五穀豊穡が祈願された後、宮出しが行われる。山崎の木方による合図で一斉に屋台が動きだし、練り合わせを行う「13台サラバ練り」は見どころである。									●	●		●
		86	正月行事	—	1月1日に二之宮神社で正月神事が行われる。									●			
		87	トンド	—	1月14日に二之宮神社で行われる。									●			
		88	斎灯	—	2月3日に二之宮神社で行われる。									●			
		89	茅の輪くぐり	—	二之宮神社境内に人がくぐるほどの大きな「茅の輪」がつくられる。これは一年の前半期が終わる頃に行われる「夏越の祓い」の一種で、この輪をくぐると夏負けや病気にかからないと言われている。									●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	90	盂蘭盆会	—	会としては実施されていないが、各家庭で実施されている。					
		91	盆祭り	—	8月に二之宮神社で行われる。					
		92	地藏盆	—	8月23日に地藏堂で行われる。					
遺跡	古墳・その他の墓	93	大塚古墳	古墳時代	周囲は平たんな田畑で、墳丘の盛り上がりが目立つ。開墾のために形が変わっているが、直径約30m、高さ約3.5m程の円墳であったと考えられる。北方の用水路に、大塚古墳出土と伝えられる石棺の一部がある。 【町指定史跡】					
		94	馬ウ子古墳	古墳時代	古墳時代の円墳。横穴式石室と思われる、須恵器、土師器、管玉、黒色玉石が出土している。耳環、刀剣片も出土したとされるが、現在は確認できない。					
		95	朝谷遺跡	弥生時代後期	弥生時代後期の遺跡。壺棺（町指定文化財）が出土している（小児の遺骨と思われるものも出土）。					
		96	朝谷1号墳	古墳時代後期	古墳時代後期後半の円墳（直径14m）。1号墳と2号墳が知られていたが、現在は1号墳のみを確認できる。墳丘や石室はほぼ完存する。石室の全長は8.7mあり、旧神崎郡の中でも長い石室をもつ古墳のひとつである。 【町指定史跡】					
		97	朝谷2号墳	古墳時代	かつて確認されていたが、現在は不明である。円墳で横穴式石室をもつと思われ、耳環、刀剣が出土したとされるが、現在は確認できない。					
		98	千束遺跡	中世	千束は古代葬法の痕跡地の可能性が指摘され、民話の伝承地でもあることから、何らかの遺跡の存在が考えられてきた。調査により山崎集落の前身である集落の可能性を示す土器類や集石遺構、溝状遺構が確認された。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	99	清水遺跡	古墳時代	古墳時代の遺物が採集されていた遺跡である。現在のところ明確な遺構は確認できていない。					
		100	山崎大塚遺跡	古墳時代	古墳時代の集落跡。					
		101	山崎大垣内遺跡	古墳時代	古墳時代の集落跡。					
		102	山崎五反田遺跡	古墳時代	古墳時代の集落跡。					
	古道・街道	103	旧神西郡の南北道	—	市川右岸を通る。江戸時代には、本道である生野街道ではなく神西郡を通る道筋も頻繁に利用され、役人等の通行時の休泊や諸費用の継立で難渋したため、本道を通るよう嘆願書も提出されている。					
	その他の遺跡	104	富田鉦山跡	昭和初期頃	昭和初期頃の鉦山と思われ、遺構の一部が残存している。福山鉦山（福田）と近接し、周辺の鉦物関係を知る上で貴重な存在となっている。					
	名勝地	山岳	105	神前山	—	『播磨国風土記』に、建石敷命（たけいwashikiのみこと）がこの山に降り立ち、神様がいる山ということで神前山と呼ばれ「神崎郡」の由来になったと書かれている。二之宮神社の裏山には、建石敷命が降り立ったとされる大きな岩「磐座」がある。				
106			北山（山崎山、千束山）	—	二之宮神社の背後にそびえる。建石敷命が降り立ったとされる大きな岩「磐座」がある。					
河川・滝		107	市川	—	下流域は川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高く、魚類の在来種も多いことから、兵庫県レッドリスト（B）に掲載されている。また、月見橋下流右岸と神崎橋下流左岸は、ミクリ・ナガエミクリが生育する川辺植物群落として兵庫県レッドリスト（C）に掲載されている。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

山 崎

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
動物・植物・地質鉱物 植物	108 二之宮神社の森	—	環境省の自然環境基礎調査では、社叢内のスギ(幹周 325 cm、樹高 25m)、シイノキ(幹周 305 cm、樹高 20m)、シヨウ(幹周 300 cm、樹高 20m)、カヤ(幹周 305 cm、樹高 20m)が巨樹・巨木として、イチイガシ林(0.3ha)が特定植物群落としてあげられている。 【兵庫県指定環境緑地保全地域】 【町指定保存樹】		●				
	109 山崎法界萬霊塔前のムクノキ	—	山崎法界萬霊塔前に位置する。 【町指定保存樹】		●				
文化的景観 生活・生業・風土により形成された景観地	110 直谷池	明治 42 年 (1909)	受益面積 5ha、流域面積 0.243 km ² 、満水面積 0.84ha、貯水量 13,100 m ³ 、堤高 5.0m、堤長 70mを計る。昭和 48 年(1973)に部分修理している。谷の奥にあり、上水道の水源にもなっている。			●			
その他 信仰の場 寺社の行事 民間説話・地名・伝承地・屋号等	111 妙法寺	—	天正 5 年(1577)に創建された日蓮宗の寺。				●		
	112 二之宮神社	—	祭神は宍粟市伊和神社の神の御子・建石敷命。播磨国風土記ゆかりの神前山の麓にある。				●		
	113 彼岸会(春)	—	3月に妙法寺で行われる。				●		
	114 彼岸会(秋)	—	9月に妙法寺で行われる。				●		
	115 千束の地名由来	—	柳田國男『故郷七十年』では「暗夜などにあの崖の下の川っぶちに沿った狭い道を歩いていると、崖の上の方から大きな足が出て、通る人の頭越しに川の水で足を洗うという話が伝わっており、それで洗足というのだと、土地の人は知っている。」と記されている。				●		
116 磐座	—	二之宮神社の裏山の山上にある大きな岩で、宍粟市にある伊和神社の神様の子、建石敷命(たけいわしきのみこと)がここに降り立ち、この岩の上に鎮座したとされる。				●		●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・山崎太鼓保存会などを組織し、山崎区に伝わる屋台の太鼓の演奏、伊勢音頭の技術継承など民俗芸能の保存・継承並びに後継者の育成のための取組を実施しています。
- ・自立（律）のまちづくり交付金事業を活用して、山崎区伝統の播州音頭『神前山物語』について、盆踊り大会を通じて広く区民に参加を呼びかけて周知しています。また、地元より講師を招いてわら細工（草履）作りを指導してもらい、村の伝統的技法を後世に伝えていく三世代交流事業を実施しています。
- ・二之宮神社の保存のため、修理や清掃活動を実施しています。



播州音頭『神前山物語』盆踊り



わら細工作り